

3. プレゼンテーションソフトによるスライドショー

予定したスライドが完成したら、いよいよスライドショーによるプレゼンテーションを実施することになります。PowerPoint2003には、スライドショーを効果的にする様々な機能が用意されています。これらの機能を使って、まずは準備をしていきましょう。

3-1 ノートの利用

標準表示画面の下部分に、「クリックしてノートを入力」と書かれたノートペインが見えています。ここは、スライドショー実行時に必要になる発表用の原稿やメモ書きを書いておける便利な場所です。特に、スライドショー実行時にはスライドしか表示されないのので、ノートとスライドを同時に印刷した資料を持っていると、出席者には見せないで発表者のみの情報を見ながらプレゼンテーションができることとなります。

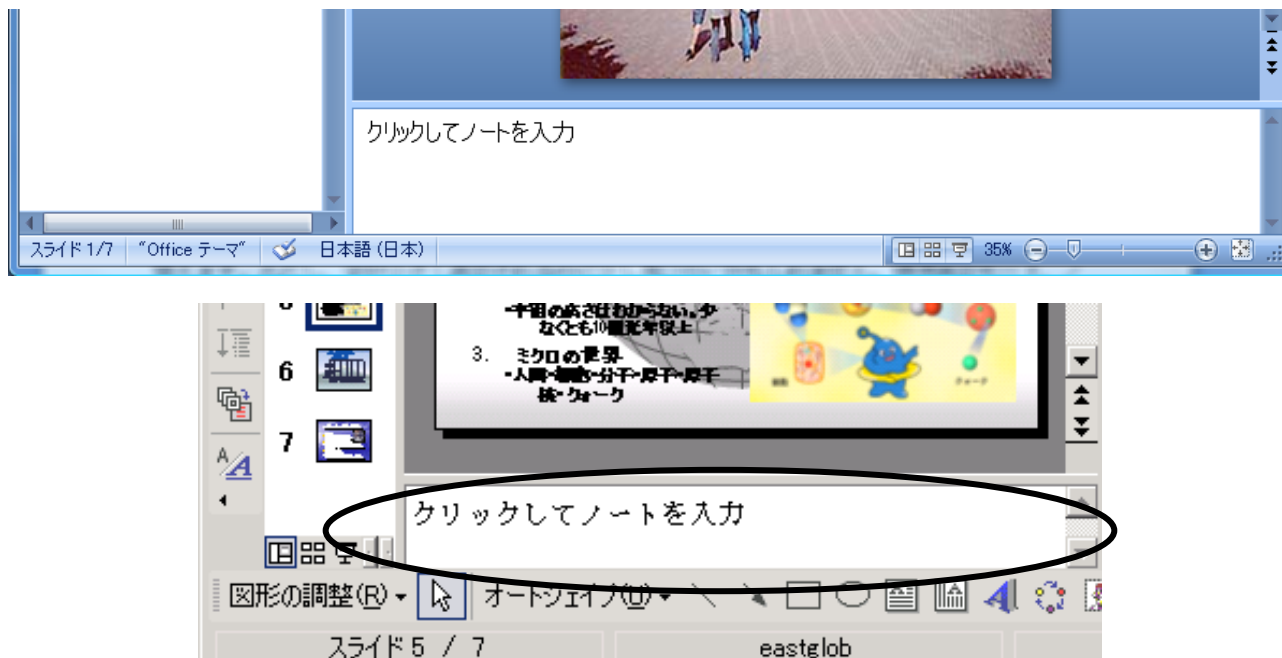


図 3-1 ノートペイン

また、次節で説明するように、この機能を逆手に取り、スライドといっしょに印刷して配布資料の説明に使うこともできるでしょう。

使い方は簡単です。ノートペインをクリックすれば文字を入力できる状態になるので、ワードで文章を入力するように書いていきます。字体、字のサイズや色などを変更するのもワードと同じで、対象を反転させて「フォント」を呼び出し、処理します。また、スライドと同じように、ノートペインにも図、表、グラフなどのオブジェクトを挿入することもできます。ノートペインを大きく表示したい場合は、メインメニューで「表示」→「ノート」とクリックし、ノート表示モードに切り替えます。ただし、字が小さく表示されるので少し見づらいかもかもしれません。標準表示モード、ノート表示モードのどちらで入力するかは、好みで選んでください。元に戻るのは、メインメニューで「表示」→「標準」とクリックするだけです。

では実際に、図 3-1 のスライドに以下のようにノートを作成しましょう。なぜそうするのは、後でわかります。

ノートペインに書き込む内容：

- 1.スライドの説明が終了したら、アイコンをクリックしてファイル「地球の誕生と人間の歴史」を呼び出し、さらに詳しく説明する。説明後このファイルを閉じ、スライドに戻る。
- 2.右上の図をクリックして、グラフのスライドに移り説明する。グラフのスライドのグラフをクリックして、このスライドに再度戻る。
- 3.右下の図をクリックして、最後のスライドへジャンプする。

3-2 資料の配布 — スライドの印刷

スライドの印刷は、基本的に発表者用資料と出席者用資料を作成するためだと考えてよいでしょう。操作は、他の Windows アプリケーションとほとんど同じなので簡単です。

まず、ページ設定をします。メインメニューで「ファイル」→「ページ設定」と選び、スライドのサイズ指定は「画面に合わせる」にし、印刷用紙の向きを決めます。ここでは、下図のように「横」にして「OK」をクリックしましょう。

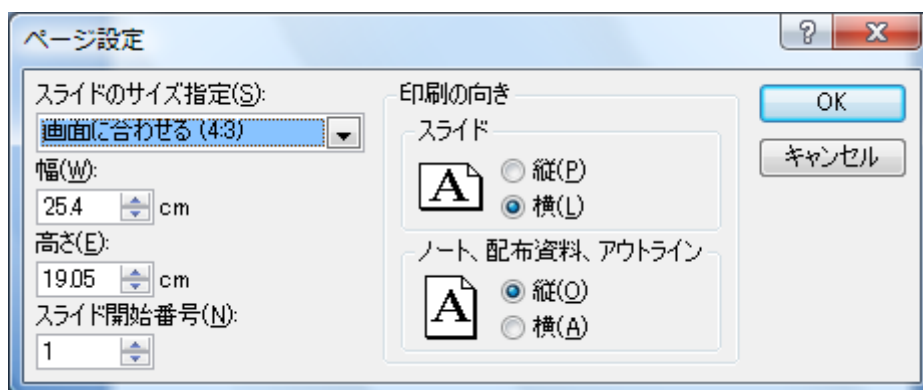


図 3-2 ページ設定

次に、メインメニューで「ファイル」→「印刷」と選び、以下の項目を設定します（次ページの図参照）。実際に設定したら、プレビューで確認してください。プレビューから「印刷」ダイアログボックスに戻るには、ツールバーの「印刷」アイコンをクリックします。

印刷の対象

- スライド……用紙 1 枚にスライド 1 枚を印刷する。
- 配布資料……用紙 1 枚にスライド 1～9 枚を印刷する。この場合のみ「1 ページあたりのスライド数」を指定できる。
- ノート……用紙 1 枚にノートペインを含むスライド 1 枚を印刷する。
- アウトライン表示……アウトラインを印刷する。

配布資料

1 ページあたりのスライド数……用紙1枚に印刷するスライド数を指定

(3枚のときだけメモを取るスペースが用意されます)

順序……スライドの並べる方向を指定

用紙に合わせて印刷する……用紙の大きさに自動調整して合わせる

スライドに枠をつけて印刷する……スライドの境界線を表示する

カラー/グレースケール……プリンタに合わせて「カラー」、「グレースケール」、「単純白黒」を選択

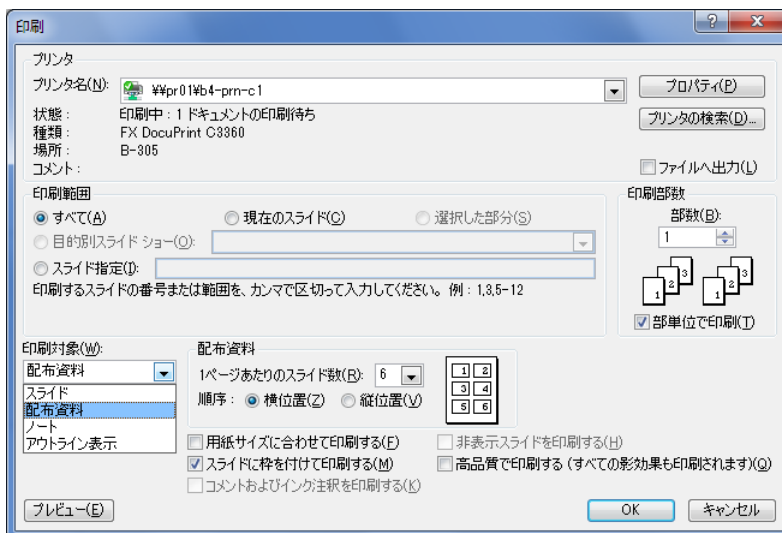


図 3-3 「印刷」ダイアログボックス



図 3-4 「印刷プレビュー」画面

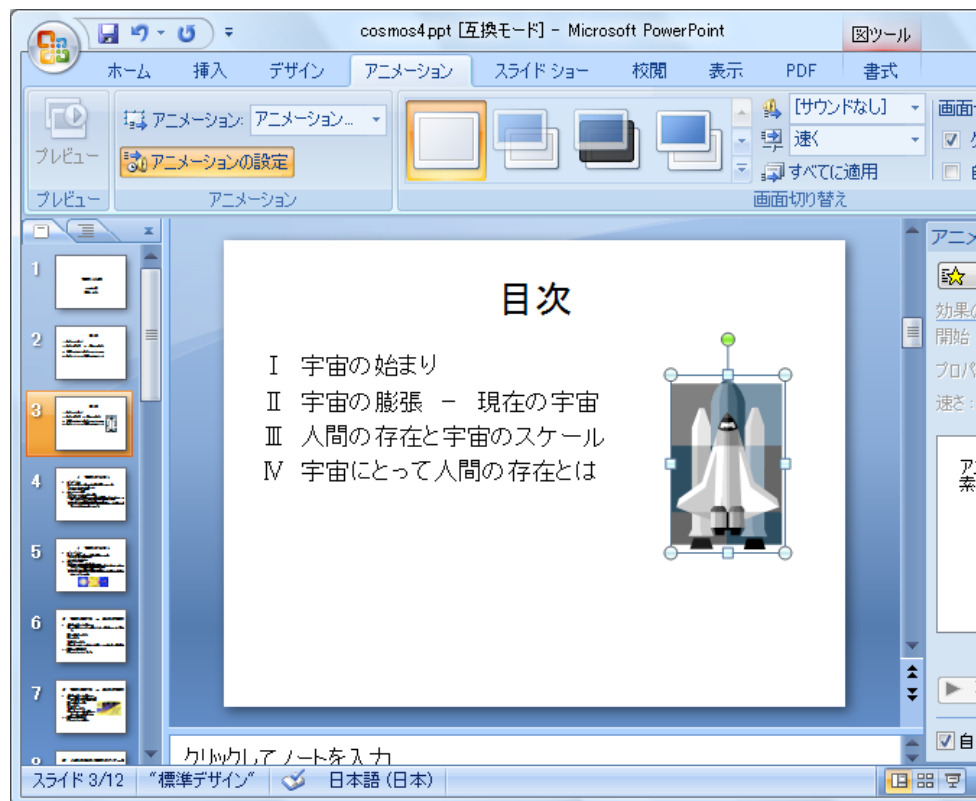
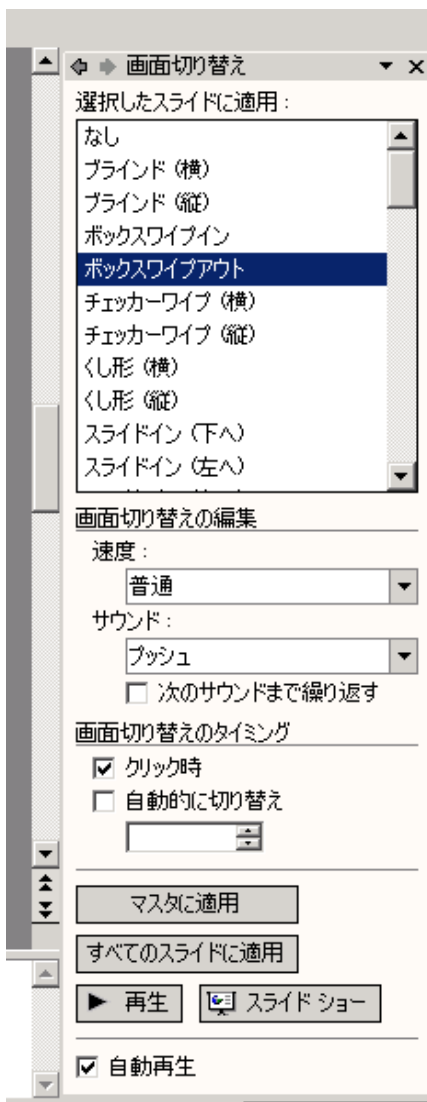
なお、印刷プレビュー画面でも上記の項目を設定することが可能です。印刷プレビュー画面のツールバーに表示されていない項目は、「オプションボタン」をクリックすると出てきます。また、この「オプション」を使うと、ヘッダーとフッターをつけることもできます。

また、前節でも示唆したように、ノートを印刷して発表用原稿とすることも可能だし、ノートに説明を入力しておき、説明つき資料として配布することも可能です。ただし、スライドの枚数が多い場合は、ノートではなく配布資料として複数枚のスライドを用紙1枚に印刷する方がよいでしょう。

では、用紙1枚に6枚のスライドを配置する資料を作成してください。

3-3 スライドショーにおける特殊効果

PowerPoint2003では、22種類の画面（スライド）切り替え効果とそのバリエーション、さらにはスライド上のテキストやオブジェクトのような個々の要素にアニメーションを設定できます。また、スライドから別のスライドへ順番を無視してジャンプしたり、スライドから他のファイルやホームページを呼び出すハイパーリンクなども可能です。これらの特殊効果は、スライドショー実行中にマウスのクリックなどによって実行に移されます。



これらの特殊効果を設定していくにあたって、スライドショーなるものがどのように進行するのかを一度経験しておくといよいでしょう。特殊効果をまだ設定していないので、スライドの切り替えはワンパターンで、オブジェクトなどの要素も個別の動きをし

ませんが、メインメニューで「スライドショー」→「実行」とクリックして、スライドショーが始まったらクリックするごとに画面（スライド）が切り替わっていくことを確認してください。

3-3-1 画面切り替え効果

対象とするスライドを選んでおき、メインメニューで「スライドショー」→「画面切り替え」と選択すると、作業ウィンドウに選択したスライドに適用する画面切り替え効果、その速度とサウンドの有無、画面切り替えのタイミングなどの設定項目が出てきます。下にある「自動再生」がチェックされていることを確認して、「画面切り替えのタイミング」は「クリック時」にしておき、選択したスライドに適用する画面切り替え効果および速度とサウンドを色々をクリックして試していきましょう。そのつど自動再生されるので、効果を実際に確認できるでしょう。なお、サウンドはやりすぎると逆効果なので、控えめにしておきましょう。

図 3-5 画面切り替え効果

スライド1枚ずつ設定していく場合は、そのつどスライドを指定してから画面切り替え効果を設定していきます。すべてのスライドに同じ効果を適用する場合は、「すべてのスライドに適用」ボタンをクリックします。その上で、特別なスライドだけ別の切り替え効果を設定することも可能です。

では、例題「宇宙と人間.ppt」のスライドに画面切り替え効果をつけていきましょう。

3-3-2 アニメーション効果

スライド上のテキストやオブジェクトに設定されているアニメーションは、あらかじめ用意されているパターンと、動く道筋を指定するアニメーションの軌跡の2種類があります。そして、アニメーションのパターンには開始、強調（表示中）、終了の3つのタイミングがあります。すなわち、最も設定の多いケースとしては、1つの文字列や1つのオブジェクトを選択し、開始時、表示中、終了時のパターンを選択し表示中のパターンの前後に軌跡を指定する場合があります。それも、いくつかの軌跡を連続して指定することも可能です。

アニメーションの対象となるのは、テキストの段落（反転させて指定、最低単位）とオブジェクトで、段落より短いテキストを指定してもそのテキストが含まれる段落が対象となり、オブジェクトは分割できません。もちろん、テキストに関しては複数の連続した段落をひとまとまりとして指定することもできます。また当然ですが、アニメーションを設定しないテキストや段落は、画面が切り替わったときから表示され、次の画面に切り替わるまで動きません。

1枚のスライド上、あるいはすべてのスライド上の要素に一括して同じアニメーションを指定することも可能です。ただし、それでは多くの場合退屈で、要素ごとにアクセントをつけることもできないので、やはり要素ごとに設定するのがベターでしょう。それでは、実際に1つのテキスト段落にアニメーションをつけてみましょう。この例で、大体の設定方法を理解してください。後は、説明しなくても色々試しているうちにわかってくるでしょう。以下のように操作しましょう。各アニメーションの設定は、自動再生で確認できます。

①メインメニューで「スライドショー」→「アニメーションの設定」を選択。

- ②タイトルスライドを選択し、「2006年4月」を反転させる。
- ③「アニメーションの設定」作業ウィンドウで「効果の追加」→「開始」→「ひし形」を選択（アニメーション1）
- ④続けて（「2006年4月」の反転が消えたら、反転しなおす）、「アニメーションの設定」作業ウィンドウで「効果の追加」→「アニメーションの軌跡」→「対角線（右下へ）」を選択（アニメーション2）。
- ⑤次に、「アニメーションの設定」作業ウィンドウで「効果の追加」→「アニメーションの軌跡」→「その他のアニメーションの軌跡」→「星5」を選択（アニメーション3）。
- ⑥次に、「アニメーションの設定」作業ウィンドウで「効果の追加」→「強調」→「スピン」（アニメーション4）。
- ⑦次に、「アニメーションの設定」作業ウィンドウで「効果の追加」→「終了」→「ボックス」を選択（アニメーション6）。

以上で1つの要素にかなり多くのアニメーションを設定しました。「アニメーションの設定」作業ウィンドウには下図のような設定が記録されており、スライドにはアニメーションの軌跡が図示されます。



図 3-6 アニメーションの設定

では、実際にどのように動くのか、スライドショーで確かめてみましょう。メインメニューで「スライドショー」→「実行」と選んで、クリックしながら進めていくと、クリックごとに最初のスライドが現れ（タイトルと名前は設定しなかったのが最初から表示されている）、「2006年4月」の文字が現れ、動き、消えていきます。この動きが設定どおりか、確認してください。スライドショーを途中で終了するには、右クリックによるショートカットメニューから「スライドショーの終了」を選択します。

次に、このアニメーションを編集してみましょう。すべて、作業ウィンドウで行います。

変更………変更するアニメーションをクリックし、設定しなおします。アニメーション2の速度

を早くしてみましよう。

追加……新しく設定したアニメーションは最後の順番になるので、マウスのドラック&ドロップで望む順番に移動させるか、下にある順序の変更ボタン（矢印）で変更します。

削除……対象のアニメーションをクリックし、右に現れる▼ボタンをクリックして「削除」を選択するか、上部の削除ボタンをクリックする。アニメーション5を削除し、別の軌跡を新しく設定して、同じ順番に挿入してみましよう。

効果のオプション設定……対象のアニメーションをクリックし、▼ボタンをクリックして「効果のオプション」を選択します。ここでは、アニメーション1で「テキストの動作」を「すべて同時」から「文字単位で表示」に変えてみましよう（次ページの図を参照のこと）。この「効果のオプション」では、それ以外に様々な詳細が、設定ができますが、いくつかの設定要素は作業ウィンドウの上部にも表示されています。

なお、スライドの各要素にこのような詳細にわたるアニメーション設定を行うことは、時間的にも大変な作業であり、動きが多すぎても出席者の集中力をそぐなどの逆効果にもなるので、ほどほどにとどめることが重要です。

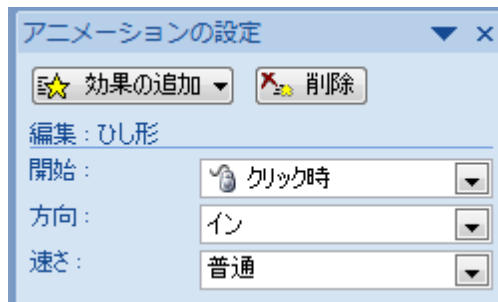


図 3-7 「効果のオプション」ダイアログボックス

特に、「終了」設定は要素が消えていくことになるので、スライド上に残しておくべき要素は「終了設定」を行わないほうがよいでしょう。

では、いくつかのスライドでアニメーション設定を行い、スライドショーで確かめてください。ただし、くれぐれもやり過ぎないように。

3-3-3 アイコン表示の動作設定

スライド5で、オブジェクトのアイコン表示を行いました。このアイコンのスライドショーにおける動作設定を行う必要があります。このアイコンの上で右クリックし、現れるショートカットメニューから「オブジェクトの動作設定」を選択して、左図のように設定しましょう。

こうしておくで、スライドショーにおいてこのアイコンをクリックしたとき、アイコンで表示されているファイルが開きます。次に進むには、このファイルを閉じるか、タスクバーのPowerPointをクリックします。

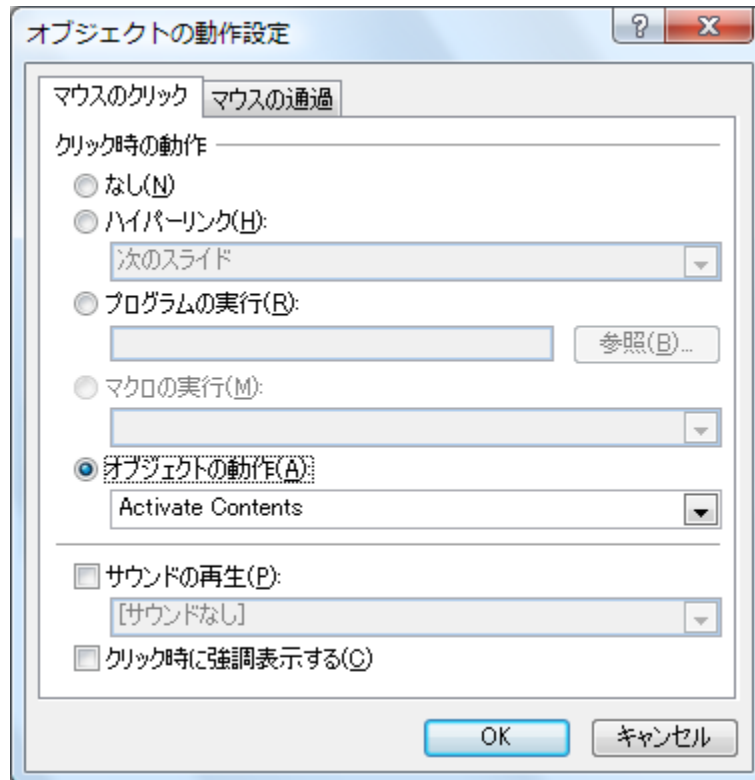


図 3-8 「オブジェクトの動作設定」ダイアログボックス

3-3-4 ハイパーリンク

テキストやオブジェクトにハイパーリンクを設定できます。すなわち、スライドショーで設定した要素をクリックすると、リンク先として設定ファイルやホームページやメール作成画面や別のスライドなどが現れるようにできるのです。そのためには、対象となる要素をクリックして、メインメニューで「挿入」→「ハイパーリンク」と選ぶか、右クリックによるショートカットメニューから「ハイパーリンク」を選びます。

ここで、以下のようなハイパーリンクを設定します。

スライド5：右上の図：ハイパーリンクをスライド6に設定（下図参照）

右下の図：ハイパーリンクをスライド7に設定



図 3-9 「ハイパーリンクの挿入」ダイアログボックス

スライド 6 : グラフ : ハイパーリンクをスライド 5 に設定

これで、スライドショーでスライド 5 に来たとき、以下のようにになります。もちろん、口頭での説明が入り、タイミングを見計らって各要素をクリックしていくことにはなりますが、ここではクリックとその効果だけを記しています。

- ①まず、アイコンをクリックしてファイル「地球の誕生と人間の歴史.htm」を呼び出す。
- ②このファイルを閉じる。
- ③右上の図をクリックして 6 にジャンプ。
- ④説明の後、グラフをクリックしてスライド 5 にバック。
- ⑤右下の図をクリックしてスライド 7 にジャンプ。

このように、ハイパーリンクを使うとスライド自身や他のファイルやホームページを、スライドショーの資料として挿入し、提示することが可能です。

3-4 スライドショーの実行

スライドショーは、すでに述べたようにメインメニューで「スライドショー」→「実行」とクリックすれば始まります。後は、説明しながらタイミングを見計らって、必要なクリックを繰り返すことにはなりますが、いくつかスライドショーの間にできる操作もあります。それらはすべて、スライドショーの途中での右クリックによるショートカットメニュー（画面左下のボタンをクリックしてもよい）で実行できるものです。

では、実際に例題「宇宙と人間 ppt」でスライドショーを実行し、スライドの切り替え効果、要素のアニメーション、ハイパーリンクなどを確認しながら、右クリックによるショートカットメニューで様々な追加の操作も試してください。例えば以下の操作を確認しましょう。

- 望むスライドにジャンプする
- マウスポインタをペンに替える（ドラッグすると線が書かれる）
- ペンの色を赤にする
- スライドショーを中断する